

望まない妊娠、望まない妊娠で生まれた子どもと母親

—研究への視点—

分担研究者 上林靖子

国立精神・神経センター精神保健研究所

I. はじめに

古来、子どもは天からの授かりものといわれてきたが、近代の生殖の科学の進歩は、様相を一変させた。今日、授精は人々がコントロールできるものであり、家族計画運動は避妊の方法を広め、性教育が正しい妊娠と性病の予防について科学的根拠にもとづいた知識を一般のものとするために積極的に行われている。そればかりでなく、性についての情報がメディアを通じて広く流布されている。

それにもかかわらず、妊娠、出産は人の意のままになるものではない。これは突き詰めると、男女の関係という古今東西かわらぬ愛情をめぐる問題と、社会的存在としての人の利害と感情がさまざまに入り組んで関与しているからである。子を身ごもり産み育てるといふ営みは両親となる大人の生き方に大きく影響するばかりではなく、これが両名に望まれているかどうかは、そこに登場する子どもにとっても心身の健康に関与する重大な問題である。

近年わが国では、両親が健在でありながら乳児院・養護施設に措置される子どもたちや、家庭内で親によって虐待される子どもたちが増えつつあり注目されている。これらの背景に、子どもの出生が望まれなかった例が少なくない。これらの子どもたちとその両親が抱えている問題を明らかにし、その対応を検討することがこの班に課せられた課題である。

II. 「望まない妊娠」の定義とそのとらえ方

この研究でとりあげる「望まない妊娠」は、望んでいたかどうか (Wanted or Unwanted)、計画的であるか否か (Planned or Unplanned)、意図的であるか否か (Intended or Unintended) など類似のしかも若干異なるとらえ方がある。妊娠が計画的であるということは、計画して「実行するという」行為を意味する表現である。これに対し、意図的な妊娠は、「こころの状態」にかかわるとみなされている。「望まれた妊娠」はさらに結果として妊娠を望みよろこぶという心的状態を含んでいる。

「望まない」か否かは、妊娠に対応する行動や妊婦の陳述をもとに規定される。David⁴⁾ は、望まない妊娠である可能性がある行動としてつぎの3つのタイプをあげている；①合法であろうと非合法であろうとに意図しなかった受胎を終わらせる、②中絶を拒否され、その結果母親は児を持つことになった、③妊娠後期に妊娠を望んでいないと記録された。スウェーデン、プラハでは第2の定義に従って望まれない子どもの調査が行われている。U. S. Department of Health and Human Servicesの調査 (Family Growth Survey: 以下FGS) では、つぎの規定が採用されている³⁾。①望まない妊娠 (Unwanted Pregnancy) は、妊娠とわかった時、赤ちゃんをほしいと思っていなかった、②意図しない妊娠 (Unintended Pregnancy) は、赤ちゃんをほしいと思っていたが期待していたよりも早かった時期を誤った妊娠である、③意図した妊娠は、大体予定していた時期であるもの。カナダのDentonら⁹⁾ は、①意図した妊娠 (intended pregnancy) を、母親が妊娠を望んでいて受胎前

に避妊を中止したか、まったく避妊をしていなかったものとした。②そして妊娠を計画していないかあるいはそのころ受胎の頃妊娠を望んでいなかったものは意図しない(unintended pregnancy)としこのうち、妊娠が確定したときに妊娠でなければいいと思っていたものを意図しない望まない(unintended-unwanted)妊娠、③そうでないものは、意図しない望んだ(unintended-wanted)妊娠としている。

Davidら¹⁴⁾は、望まない妊娠を規定するとき、中絶というような妊娠を終わらせる積極的な対応を中心にとらえている。胎児の排除は最も厳しい妊娠の拒否であり、客観的な評価が可能であるという点で基準として優れているといえる。一方、FGS³³⁾やDentonら⁹⁾の用いた基準では、①妊婦(母親)の回顧的になされる陳述にもとづくということ、②望まなかった妊娠であることを報告することは、ためられることが多い。などの点で評価の信頼性に問題が生じやすい。しかし、中絶の機を逸してしまったり、中絶には踏み切らなかったものの、望んでいなかった妊娠が持つ意味を考えるとこれらの基準を取り入れることが重要であるといえよう。

Ⅲ. 望まない妊娠で生まれた子どものこれまでの研究

1. 望まない妊娠の頻度について

望まない妊娠の頻度についての報告は、上述の予定しない妊娠を基準にした調査では32.5%から56%にまたがっている^{7, 9, 10, 11, 28, 32, 33)}。この数値は調査対象が妊婦であるか産婦であるかにより異なる。カナダのHalifaxでの産婦調査では、32.5%が意図しない妊娠であり、中絶の頻度を考慮するとこれは45%に達すると推定している⁹⁾。意図しない妊娠の約3分の1は出産に至っていないことを示している。アメリカで1988年の640万の妊娠についての調査では、半分以上の56%が意図しない妊娠であった¹⁰⁾。このうち、中絶したものは出産したものとはほぼ同数であった。

これに対し、望まない妊娠であるというものの割合は12から30%を占めている。先に引用したHalifaxの調査では16.5%の望まない妊娠での出産であったが、中絶をふくめると、望まない妊娠は32%に及ぶと推定している。妊娠可能な15才から49才の女性の妊娠歴の調査をもとにした調査では、流産と出産の比は4:6であると報告されている。

世界各国の調査の中でフィンランドの調査²⁰⁾では、望まない出産が1985-6年は1.0%ときわめて少なく、望んだ妊娠が91.8%と高率である。この判断の基準が記載されておらず不明であるが、極端な違いはたいへん関心のあるところである。

避妊の実践や性についての態度が社会文化的な問題として、意図しない妊娠の出現に関連している(103)。

2. 望まない妊娠に関連する変数

年齢：望まない妊娠は、10代と35才以上の年齢で高率であることはほとんどの報告で一致している^{1, 7, 17, 20, 22, 29)}。米国では、10代の妊娠の70-95%が望んだ妊娠ではないと報告されている^{17, 22)}。グラナダの調査では10代で70%、35才以上では75%が望まない妊娠であった¹⁷⁾。

出産数・順位は望まない妊娠と関連があることをほとんどの報告で指摘されている^{1, 9, 20, 21, 29)}。第3子以上での望まない妊娠での出産が増える^{1, 29)}。これはおそらく年齢と相関する要因と考えられる。

第3の関連要因は婚姻状態^{9, 30, 20, 21, 29, 30})である。未婚であること^{21, 29})、あるいは婚姻歴のある女性^{10, 30})などがとりあげられている。

そのほか、避妊せず、または失敗¹⁰)、妊娠中のケアを受けていない^{2, 6})、妊娠中のケアの開始が遅い^{1, 17})、妊娠に気づくのが遅い(4カ月内に気づかない)^{3, 5, 21})、などものぞまない、あるいは意図しない妊娠に関連のある要因としてあげられている。

また人種^{21, 29})のほか、社会階層²⁰)とともに、教育水準(高校教育未修了)^{1, 21, 29, 30})、貧困^{21, 30})、医療扶助²¹)など、社会的要因が関連するとの報告がある。心理的要因には、妊娠中のストレスが多い²¹)、社会的サポートが少ない²¹)、パートナーとの関係が悪い¹)などがあげられている。

これらの関連要因は、望まない妊娠の原因として関連しているものと、結果として生じた要因として関連しているものがある。望まない妊娠の予防と対応を考える為には、これらを明確にしながさらさらに研究を進めることが必要であろう。

3. 望まない妊娠で生まれた子どもの問題

望まない妊娠で生まれた子どもがどのように養育され、成長するかには強い関心が払われてきた。望まない妊娠で生まれた子どもの新生児死亡率が望まれて生まれてきた子どもの2倍にも達する^{6, 19})、精神遅滞、脳性麻痺などの障害児の出現率が高い²⁰)、児童期の精神病理の発現しやすい²⁶)など、数々の不利な条件を有しているとする報告がある。とりわけ、児童虐待とネグレクト^{15, 31})がこれらの子どもにしばしば見られる。養子にだれる子どもも少なくない¹⁵)。

長期にわたる追跡調査の報告によると、9才の時点で心理的な問題を抱え、学校の評価、人格、親の態度に違いがみられる¹²)、さらに16才にては、父親との関係・敵意・一貫性が欠ける¹⁴)、学校の評価が低い、学校を離れるのが早い¹⁴)などの諸問題をこれらの子どもに多く認められることを指摘している。これらの子どもは心身の発達過程で種々のリスクを持っていることを示唆するものである。

4. 望まない妊娠により出生した子どもを持つ母親の問題

これらの母親は、出産直後と6カ月時の追跡調査で不安と抑うつを示す率が高いが、時間とともに減少する¹⁰)、あるいは自殺傾向が多くみられる¹³) (63)との報告がある。これは、一部には望まない妊娠で出産する女性が、妊娠以前から精神健康に問題を持っていた可能性があり、その結果とはかならずしも限らないことを示唆した(60)。

IV. 今後の課題

「望まない妊娠」「意図しない妊娠」は、第1に子どもを生み育てる社会的環境と密接な関連がある。わが国では、昭和30年代に入り急速に少子化がすすみ、合計特殊出生率が1.5にまで減少し、人口政策上からも出産率を高めるための施策が改めて強調されるようになってきている。第2には、妊娠をコントロールすることがどのくらい可能かという点が重要な意味を持っている。これは、性をめぐる男女の姿勢、就中、女性の側に明確な選択権があるかどうかという問題が関与するといえる。さらに突きつめていけば、家庭あるいは社会において男女がどのような力関係にあるかが反映する。人権の問題にも通じる重要性をおびている。第3に個人的要因についても検討することが必要であろう。これには女性の側のみではなく男性の要因と重ねて検討することが望ましい。

出生した児と養育者が持つ問題の検討には、望まない妊娠の結果生まれたという事実がこれまでにとりあげられてきた諸関連要因を考慮することが必要である。そしてそれぞれがどれくらいの重みを持っているかを検討しなければならないであろう。

この研究班では主として養育者・養育環境との関連においてこれを取りあげようと考えている。それぞれの事例の積み重ねとともに、同一の環境児で望まれた出産の子どもと対応させ、比較検討を予定している。

引用文献

1. Arancibia M, Vargas N, Calderon P, Canales P, Gonzalez L, Guzman C, Molina A, Naquira C, Salgado C, Sanchez Y, et al: Hijo no deseado: incidencia y características en puerperas de un hospital de Santiago. [Unwanted children: incidence and characteristics among puerperal women in a hospital of Santiago]. *Rev Chil Pediatr.* 60 (2) p107-11, 1989.
2. Bedics BC: Nonuse of prenatal care: implications for social work involvement. *Health Soc Work,* 19 (2) p84-92, 1994.
3. Bluestein D: The unanticipated pregnancy: a preliminary study. *Fam Pract Res J,* 9 (2) p105-13, 1990.
4. Bluestein D, Levin JS.: Symptom reporting in wanted and unwanted pregnancies. *Fam Med,* 23 (4) p271-4, 1991.
5. Bluestein D, Rutledge CM: Determinants of delayed pregnancy testing among adolescents. *J Fam Pract,* 35 (4) p406-10, 1992.
6. Bustan MN, Coker AL: Maternal attitude toward pregnancy and the risk of neonatal death. *Am J Public Health,* 84 (3) p411-4, 1994.
7. Cartwright A: Unintended pregnancies that lead to babies. *Soc Sci Med,* 27 (3) p249-54, 1988.
8. Czeizel A, Szentesi I, Szekeres I, Glauber A, Bucski P, Molnar C: Pregnancy outcome and health conditions of offspring of self-poisoned pregnant women. *Acta PaediatrHung,* 25 (3) p209-36, 1984.
9. Denton AB, Scott KE: Unintended and unwanted pregnancy in Halifax: the rate and associated factors. *Can J Public Health,* 85 (4) p234-8, 1994.
10. Forrest JD: Epidemiology of unintended pregnancy and contraceptive use. *Am J Obstet Gynecol,* 170 (5 Pt 2) p1485-9, 1994.
11. Haile A: Unintended conception and unwanted fertility in Gondar, Ethiopia. *East Afr Med J,* 69 (7) p355-9, 1992.
12. Matejcek Z, Dytrych Z, Schuller V: Follow-up study of children born to women denied abortion. *Ciba Found Symp,* 115 p136-49, 1985.
13. Misic-Pavkov G: Procena stepena suicidalnosti zena sa nezelenom trudnocom. [Evaluation of the level of suicidal tendencies in women with unwanted pregnancies]. *Med Pregl,* 43 (5-6) p257-9, 1990.
14. Myhrman A: Family relation and social competence of children unwanted at birth. A follow-up study at the age of 16. *Acta Psychiatr Scand,* 77 (2) p181-7, 1988.
15. Najman JM, Morrison J, Keeping JD, Andersen MJ, Williams GM: Social factors associated with the decision to relinquish a baby for adoption [published erratum appears in *Community Health Stud* 1990;14(3):314]. *Community Health Stud,* 14 (2) p180-9, 1990.
16. Najman JM, Morrison J, Williams G, Andersen M, Keeping JD: The mental health of women 6 months after they give birth to an unwanted baby: a longitudinal study. *Soc Sci Med,* 32 (3) p241-7, 1991.

17. Peckham S: Preventing unintended teenage pregnancies. *Public Health*, 107 (2) p125-33, 1993.
18. Plaza Alarcon E, Ruiz de Adana Belbel J, Alguacil Cubero P, Lopez Ortiz F, B aena Gamus L, Enriquez Maroto F, Minaya Collado JA: [An epidemiological study on unwanted pregnancy], *Estudio epidemiologico sobre embarazo no deseado. Aten Primaria*, 13 (2) p77-9, 1994.
19. Puffer RR: Family planning issues relating to maternal and infant mortality in the United States. *27 (2) p120-34*, 1993.
20. Rantakallio P, Myhrman A: Changes in fertility and the acceptability of pregnancies in northern Finland during the last 20 years. *Int J Epidemiol*, 19 (1) p109-14, 1990.
21. Sable MR, Stockbauer JW, Schramm WF, Land GH: Differentiating the barriers to adequate prenatal care in Missouri, 1987-88. *Public Health Rep*, 105 (6) p549-55, 1990.
22. Spitz AM, Ventura SJ, Koonin LM, Strauss LT, Frye A, Heuser RL, Smith JC, Morris L, Smith S, Wingo P et al: Surveillance for pregnancy and birth rates among teenagers, by state--United States, 1980 and 1990. *MMWR CDC Surveill Summ*, 42 p1-27, 1993.
23. Sulak PJ, Haney AF: Unwanted pregnancies: understanding contraceptive use and benefits in adolescents and older women. *Am J Obstet Gynecol*, 168 p2042-8, 1993.
24. Van Look PF, von Hertzen H: Emergency contraception. *Br Med Bull*, 49 (1) p158-70, 1993.
25. Waldman HB: Changing environment for the care of children. *ASDC J Dent Child*, 58 (3) p244-7, 1991.
26. Ward AJ: Prenatal stress and childhood psychopathology. *Child Psychiatry Hum Dev* 22 (2) p97-110, 1991.
27. Westoff CF: Unintended pregnancy in America and abroad. *Fam Plann Perspect*, 20 (6) p254-61, 1988.
28. While AE: The incidence of unplanned and unwanted pregnancies among live births from health visitor records. *Child Care Health Dev*, 16 (4) p219-26, 1990
29. Williams LB: Determinants of couple agreement in U.S. fertility decisions. *Fam Plann Perspect*, 26 (4) p169-73, 1994.
30. Williams LB: Determinants of unintended childbearing among ever-married women in the United States: 1973-1988. *Fam Plann Perspect*, 23 (5) p212-5, 221, 1991.
31. Zuravin SJ: Unplanned childbearing and family size: their relationship to child neglect and abuse. *Fam Plann Perspect*, 23 (4) p155-61, Jul-Aug 1991.
32. Unintended childbearing: pregnancy risk assessment monitoring system -Oklahoma, 1988-1991. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep*, 41 (50) p933-6, Dec 18 1992.
33. Unintended pregnancy--New York, 1988-1989. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep*, 40 (42) p723-5, Oct 25 1991.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

古来、子どもは天からの授かりものといわれてきたが、近代の生殖の科学の進歩は、様相を一変させた。今日、授精は人々がコントロールできるものであり、家族計画運動は避妊の方法を広め、性教育が正しい妊娠と性病の予防について科学的根拠にもとづいた知識を一般のものとするために積極的に行われている。そればかりでなく、性についての情報がメディアを通じて広く流布されている。

それにもかかわらず、妊娠、出産は人の意のままになるものではない。これは突き詰めると、男女の関係という古今東西かわらぬ愛情をめぐる問題と、社会的存在としての人の利害と感情がさまざまに入り組んで関与しているからである。子を身ごもり産み育てるといふ営みは両親となる大人の生き方に大きく影響するばかりではなく、これが両名に望まれているかどうかは、そこに登場する子どもにとっても心身の健康に関与する重大な問題である。

近年わが国では、両親が健在でありながら乳児院・養護施設に措置される子どもたちや、家庭内で親によって虐待される子どもたちが増えつつあり注目されている。これらの背景に、子どもの出生が望まれなかった例が少なくない。これらの子どもたちとその両親が抱えている問題を明らかにし、その対応を検討することがこの班に課せられた課題である。